

# ドイツ文学 (ドイツ文学)

1 年次 前学期	授業科目責任者: 渡邊 徳明 (教養学 ドイツ語)
----------	---------------------------

学習の目標 (GIO)	<p>主にドイツ中世の文学に焦点をあて、ドイツ文化の特徴と、ヨーロッパ文化の伝統の中でのドイツ文学の位置づけについて理解する。</p> <p>[日独の関係について] ドイツ医学が急速に学問的に発展し、世界的にもそのレベルの高さが注目されるようになったのが 19 世紀前半のことである。この時期、徳川幕府治下の日本に來た医師シーボルトは南ドイツの医学の名家の出であった。明治に入り、折しもフランスに戦争で勝ってヨーロッパの一等国となっていたドイツから日本は法学、医学、軍事などの分野で多くの影響を受けた。歯科の分野においても、つい最近までドイツ歯科医学の影響は色濃く残っていたようである。</p> <p>いわゆる実学としては扱われづらい文学・哲学の世界でも、明治以降、日本はドイツから影響を受け続けた。その後、第二次大戦における日独の同盟と敗戦、戦後の両国の民主国家としての似通った立場など、日独両国は様々な価値と問題を共有している。ドイツ文化について洞察することは、同時に自分たちの文化との違いを意識する作業であり、結果として日本文化への関心と理解が深まることも期待される。</p> <p>[本講義のテーマ] 今年度のドイツ文学講義では、現在のドイツ、さらにはヨーロッパ全体の基礎が形成された中世までさかのぼり、ドイツの歴史を振り返りつつ、文学作品に触れてゆく。折に触れて周辺諸国の文学作品との比較も行い、ドイツ文学が常に周辺諸国の文学の影響を受けてきたのだ、ということをも確認したい。</p>
授業担当者	ドイツ語 渡邊徳明
教科書	特に指定しません。授業時にプリントを配布します。
参考図書	授業時に適宜紹介します。
実習器材	特にありません。
評価方法 (EV)	定期試験は実施しません。授業での参加状況などによる平常点 (60 パーセント)、最終レポート (40 パーセント) にて評価します。レポートは授業で扱った作品、もしくは担当教員が推薦する授業関連の作品を一つ選択して、それを読んで内容要約と感想を書いてもらう、というものを求めます。
学生へのメッセージ オフィスアワー	出席を重視します。文学や歴史についての予備知識は特に求めません。適宜、画像や映像なども取り入れ視覚的・聴覚的にヨーロッパ文化に親しんでもらえればと思います。またこの授業を通じて、一冊で良いですから気に入った文学作品を見つけてもらえればと思います。知識の習得よりも、文学作品をどのように鑑賞するか、という方法・態度をみんなで考えてゆく、という授業にしたいと思います。

日程	授業項目	授業内容・行動目標・学習方略 (SBOs) (LS)・準備学習 (予習) 内容・コアカリキュラム・国家試験出題基準	授業担当者
4 月 10 日 (火) 2 時間	ドイツの地理的・歴史的諸条件について	<p>[準備学習項目] ドイツの地政学的な条件・歴史について事前資料を読む。</p> <p>[授業内容] 古代ローマ時代には辺境であったアルプス以北のゲルマン人の国が、その後、中世・近代と時代を経てヨーロッパ政治・経済の中心になっていった経緯をたどってゆく。</p>	渡邊徳明
4 月 17 日 (火) 2 時間	古代末期から中世初期のドイツ	<p>[準備学習項目] ドイツにおけるキリスト教の影響・ゲルマン的な民族性と普遍宗教の融合による文化について事前資料を読む。</p> <p>[授業内容] 古代末期から中世初期にかけてのドイツの歴史。特に古代ローマ帝国とカロリング朝、神聖ローマ帝国との間の理念的継続性と、本質的な差異について。</p>	同上
4 月 24 日 (火) 2 時間	13 世紀の英雄叙事詩「ニーベルンゲンの歌」の世界	<p>[準備学習項目] ゲルマン民族大移動期の歴史と、13 世紀における文学作品との間の関係について事前資料を読む。</p> <p>[授業内容] 古代ローマ帝国衰退期の 4 ~ 5 世紀に行われたゲルマン民族大移動によってヨーロッパは大混乱に陥った。中国の北方の騎馬民族・匈奴の末裔であるフン族の侵攻によりゲルマン諸部族・西ローマ帝国は混乱が生じ、やがて帝国は滅亡する。この混乱の時代の民族の興亡の歴史はやがて伝説となってゲルマン民族の間で伝わり、それが 13 世紀初頭に宮廷文学の土壌の上に壮大な叙事詩を生んだ。すなわち「ニーベルンゲンの歌」である。</p>	同上

日程	授業項目	授業内容・行動目標・学習方略(SBOs)(LS)・準備学習(予習)内容・コアカリキュラム・国家試験出題基準	授業担当者
5月1日(火) 2時間	「ニーベルンゲンの歌」のクリエムヒルト像	<p>[準備学習項目] 「ニーベルンゲンの歌」の梗概について事前資料を読む。</p> <p>[授業内容] 「ニーベルンゲンの歌」はブルグント族の王女クリエムヒルトの一代記である。彼女は最愛の夫ジーフリトを英雄ハゲネに暗殺され、未亡人として泣き暮れる日々を送る。やがてフン族のエツェル王(実在のアッチラ王がモデル)と再婚した彼女は、ジーフリトを殺したハゲネと更には自らの兄までも殺害し、自らも首をはねられる。ヨーロッパ文学史上、過去の苦しみの記憶という内面的・個人的な動機によって自らの強い意志で人生を選択した女性を描いた初めての例であると言っても良い。</p> <p>この回では、この悲劇の貴婦人クリエヒルトの描写について詳しく考察してみたい。</p>	同上
5月8日(火) 2時間	「ニーベルンゲンの歌」の13世紀における受容	<p>[準備学習項目] 「ニーベルンゲンの歌」の梗概について事前資料を読む。</p> <p>[授業内容] 13世紀初頭に書かれた「ニーベルンゲンの歌」は、すでに同時代人々々の間で大きな影響を及ぼした。とりわけ、ヒロイン・クリエムヒルトの評価については、13世紀の人々の間でも賛否両論があった。この回では、そのような議論の中で特に重要視される作品「ニーベルンゲンの哀歌」「ヴォルムスの薔薇園」について紹介してみたい。</p>	同上
5月15日(火) 2時間	フリッツ・ラングの映画「ニーベルンゲン」	<p>[準備学習項目] 20世紀前半の表現主義の芸術運動に関する事前資料を読む。</p> <p>[授業内容] 1920年代にドイツでフリッツ・ラングによって制作された映画「ニーベルンゲン」の第一部を観る。いわゆる表現主義の時代の映画で、特徴的な演出の仕方についても議論をしてゆく。</p>	同上
5月22日(火) 2時間	ミンネザングの世界	<p>[準備学習項目] ミンネザング(恋愛歌謡)について事前資料を読む。</p> <p>[授業内容] 12、13世紀の宮廷では恋愛歌謡が楽しまれた。その多くは、胸が苦しくなるような不倫の恋、かなわぬ恋の歌である。実際の宮廷社会では、不倫は厳罰に処せられた。またキリスト教が支配していた同時の社会において、それまで以前には伝統的に男女の愛は否定されてきた。神への愛、形而上的な存在への愛は許容されたが、肉体的な愛は許容され難かったのである。そのような背景を踏まえてこれらの恋愛歌謡を読むとき、我が国の平安貴族が楽しみ、別れを惜しみつつ読んだ後朝の歌とはまた違う、切実で命をかけた愛の世界が読み取れていることが分かる。</p> <p>洋の東西において、似たような時期に騎士・武士という戦闘集団の社会が極めて洗練された恋愛文学を確立したことは興味深い。同時にその質的相違にも目を凝らしてゆきたい。この回の授業はそのような比較文学的視点を添えて行いたい。</p>	同上
5月29日(火) 2時間	ミンネザングの世界	<p>[準備学習項目] ミンネザング(恋愛歌謡)について事前資料を読む。</p> <p>[授業内容] 13世紀初頭のミンネザングの詩人ヴァルター・フォン・デア・フォーゲルヴァイデの詩を鑑賞する。彼は当時の恋愛歌謡の世界に革新を起こした人物であり、そのみずみずしい表現は近代のドイツの詩人ゲーテとも比せられる。</p> <p>合わせてゲーテの詩も数編紹介したい。</p>	同上
6月5日(火) 2時間	ワーグナーの歌劇「タンホイザー」	<p>[準備学習項目] リヒャルト・ワーグナーについての事前資料を読む。</p> <p>[授業内容] 13世紀の詩人タンホイザー および聖エリザベートの伝説を元に19世紀後半にワーグナーが制作した歌劇「タンホイザー」を鑑賞する。</p>	同上

日程	授業項目	授業内容・行動目標・学習方略(SBOs)(LS)・準備学習(予習)内容・コアカリキュラム・国家試験出題基準	授業担当者
6月12日(火) 2時間	アーサー王物語の世界	<p>[準備学習項目]</p> <p>アーサー王物語の概要についての事前資料を読む。</p> <p>[授業内容] 前回のミンネザング(恋愛歌謡)は抒情詩として分類される。それに対していわゆるアーサー王物語として知られる作品群は長大な叙事詩であり、ロマン(長編小説)とさえ呼ばれる。ミンネザングと異なるのはこれらの叙事詩が、騎士たちの理想像を追い求める姿を描いていることであり、彼らは愛する貴婦人のために決闘に参加し、冒険をも厭わない。ミンネザングが描いた密やかな不倫の恋の世界とは異なり、健康的な世界である、ともいえるかも知れない。欧米社会で紳士の伝統的な行動規範ともされる「騎士道」は、この時期の文化・文学にその萌芽を見ることが可能である。すなわち、神を信じ、貴婦人のために戦い、弱きを守る。この回の授業では、そのような騎士たちの文化について考えてみたい。</p>	同上
6月19日(火) 2時間	ヴォルフラムの「パルチヴァール」	<p>[準備学習項目]</p> <p>「パルチヴァール」の梗概について事前資料を読む。</p> <p>[授業内容] ヴォルフラム・フォン・エッシェンバッハによって書かれた「パルチヴァール」について紹介する。聖杯を探して旅をする騎士の物語である。同時にこの騎士の成長の物語でもある。当時の騎士社会における文学的関心が単に決闘や冒険における活躍、恋物語、といった華やかなもののみならず、長い目で見た人間の内的成長にも向けられていたことについて注目する。</p>	同上
6月26日(火) 2時間	ゴットフリートの「トリスタン」	<p>[準備学習項目]</p> <p>「トリスタン」の梗概について事前資料を読む。</p> <p>[授業内容] 前回・前々回と、13世紀の騎士文学における裏表の世界を垣間見た。すなわち、心ひそかに手の届かぬ異性を想う抒情詩の内的世界と、決闘や冒険を通して手柄を立て、さらにはそれにより人間的に成長して妻とも良き関係を築き、世の賞賛を享受するに至るといった騎士叙事詩の華やかな世俗的世界である。</p> <p>それに対し、ワーグナーの歌劇でも有名な「トリスタンとイゾルデ」についてこの回では扱う。宮廷の重臣トリスタンは、叔父であり王であるマルケ王に嫁ぐことが決まっている姫イゾルデと婚礼前に関係をもってしまい、それ以降離れることができない関係になってしまう。この重臣と王妃の不倫という宮廷社会を揺るがしかねない事件は、やがて二人の人生を悲劇的結末へと導いてゆく。この作品はアーサー王物語と同じように長大な叙事詩であるが、そこに描かれる騎士トリスタンの姿は、騎士道を追い求めて正道をひた走るアーサー王の円卓の騎士たちとは異なり、夜陰に身を隠し人目を盗んで主君の妻と逢瀬を楽しみ、やがてその宮廷での地位をも捨て去る愛の求道者の姿である。この恋愛至上主義とも呼べそうなトリスタンとイゾルデの恋は、のちのヨーロッパ文学に大きな影響を与えるのである。</p>	同上
7月3日(火) 2時間	ワーグナーの歌劇「トリスタンとイゾルデ」	<p>[準備学習項目]</p> <p>前回の「トリスタン」についての資料を読んでおく。</p> <p>[授業内容] 13世紀初頭のドイツで花開いた宮廷文学の名作群は、やがて19世紀後半になりワーグナーによって歌劇の形を与えられ、世界的に知られるに至った。今回の授業では歌劇「トリスタンとイゾルデ」を鑑賞し、中世の物語と比較して、どのような演出上の工夫がなされているか、といった問題について考えたい。</p>	同上

日程	授業項目	授業内容・行動目標・学習方略(SBOs)(LS)・準備学習(予習)内容・コアカリキュラム・国家試験出題基準	授業担当者
7月10日(火) 2時間	アベラールとエロイズの往復書簡	<p>[準備学習項目] アベラールとエロイズの報復書簡についての事前資料を読む。</p> <p>[授業内容] 前回あつかった「トリストランとイゾルデ」に描かれた恋愛至上主義の世界のモデルを、もし当時のヨーロッパにおいて求めるとすれば、おそらく哲学者アベラールと恋人エロイズの恋愛を挙げるのが良かるう。彼らは教師と教え子という禁断の関係でありながら関係を持ち、アベラールは肉体的な制裁を受けて男性として身体の欠損に苦しむことになるが、中世ヨーロッパ神学界の最高峰の一人として知られる存在となる。のちに高名になったアベラールと女子修道院長となったエロイズとの間に交わされた書簡は、特に女性側の赤裸々な感情表現において特筆に値すると言えよう。</p> <p>この二人はフランス人であるが、12世紀のヨーロッパにおける恋愛の究極的な形であり、「トリストランとイゾルデ」同様にのちのヨーロッパ人の恋愛観に大きな影響を与えたものである。さらに言えば、授業ですでに扱ったドイツのミンネザング(恋愛歌謡)が内面的に激しい感情を感しつつも抑制された表現でうたわれていることと合わせて考えると、両者、さらには両民族の文化的相違を象徴しているようで興味深い。</p>	同上
7月17日(火) 2時間	前期のまとめ	<p>[準備学習項目] 前期の授業で配布した資料を読み、疑問点をメモしておく。</p> <p>[授業内容] 中世の文学を中心に進めてきた講義であるが、同時にその作品の題材が近現代において歌劇や映画の形で再演出されていることに着目し、時代を超えて人々の心を豊かにする文化伝承の強さを再認識する。</p>	同上